



キャリア教育を積み重ねる中で 1年次に「自分らしさ」を見つける

「人生すごろく『金の糸』～golden thread～」を活用する意図や方法はさまざまです。敬愛大学では、入学当初から就職活動に至るキャリア教育体系の中で、1年次の授業に取り入れたところに大きな特徴があります。キャリア科目の構成を担う、キャリアセンターの中村幸一さんにお話をうかがいました。



敬愛大学
キャリアセンター 参与
中村 幸一 さん
(CDA136743)



「人生すごろく『金の糸』」を使った
授業風景

自ら考えて主体的に行動できるように

——敬愛大学におけるキャリア教育への基本的な考え方を教えてください。

中村 自ら考えて主体的に行動でき、その行動に責任を持つて人材に育てたいと考えています。そのためには、多様な人々とコミュニケーションを図れるようにすることも大切です。キャリアセンターのミッションは学生の就職活動を支援し社会に羽ばたかせることですが、同時に、社会の発展に貢献できる人材に育てることも大切です。そこまで見据えてキャリア教育体系を考えています。

——どのような教育体系なのでしょう。

中村 2022年度からキャリア科目の体系を全面的に見直しました。従来はキャリア科目間のつながりが希薄でした。また、学生にとって難しい内容が多く、「頭では理解できても腹落ちしない」感も見受けられました。授業内容と自分自身との関係を見出しにくかったのです。そこで、身近なテーマを易しい言葉で一緒に考えることから始め、将来の「なりたい自分・ありたい姿」を描いた上で、社会に目を向け、職業理解や職業体験につながるような流れにしました。具体的には、1年次前期で『キャリアデザインを学ぶ』、後期に『キャリアプランニング』、2年次前期で『キャリア開発』、後期に『企業の魅力発見』、そして3年次の『インターンシップ』や『実践的キャリア演習』につなげるステップとしました。

ほかの授業とリンクすることで 学生の成長に結びつく

——2022年10月に授業で初めて「人生すごろく『金の糸』」を取り入れたとうかがいました。

中村 「キャリアプランニング」科目で、経済学部と国際学部のほぼ全員を対象に行いました。1クラス約35

人で、10クラス、約350人が経験したことになります。

——その意図は何でしょうか。

中村 1年次の授業の狙いは、「多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる人材」を育成することです。そのため、前期に「自分自身を知る」「キャリアとは何か」などをしっかりと身につけ、後期に「将来のなりたい自分・ありたい姿」に近づくために必要とされる社会人基礎力の向上を図ります。「人生すごろく『金の糸』」は、自分の経験を語ることによって、一つひとつの経験をつないでいる【自分らしさ】を見つけ、将来進みたい方向ややってみたいことを考えるヒントになりますので、まさに授業の狙いと合致しています。自分のキャリアに対する想いがある程度芽生えてきた後期の2コマ目で実施しました。

——学生の反応はいかがでしたか。

中村 キャリアセンターから委託されたJCDAの4人がファシリテーターを務めたのですが、「以前はほとんど話さなかった学生もよく話すようになり、望ましいコミュニケーションが生まれた」と聞いています。自ら話すこと、人の話を聴くこと、多様な価値を知ることは非常に重要です。1年次の段階で実施したことは良かったと思います。その後、課外活動に積極的に参加する学生が増えるなどの行動変容も見られ、成長したように見受けられます。——成長できた理由は何だと思われますか。

中村 前期から自分の考えを伝えたり、他者の話を聴いたりしながら学んできたプロセスの中で、ほかの授業とリンクするように「人生すごろく『金の糸』」を実施したからだだと思います。学生は今後も学び続けますので、業務体験や就活に臨む3年生になってからが楽しみです。もちろん、来年度の1年生にも実施する予定です。